

グローバル資本主義の理論構造とその特質

飯田 和人

I. 資本主義の歴史区分（3段階区分）

- (1) 19世紀以前の生成期の資本主義、
- (2) 19世紀初めから20世紀前半までの確立期の資本主義、
- (3) 第二次世界大戦以後の現代資本主義

基準：国家は、国民経済の私的もしくは民間セクター（＝市場と資本の経済領域）に対して、どのように関与してきたのか

II. 資本主義の歴史区分（5段階区分）

- (1) 生成期の資本主義（19世紀以前）：原始蓄積期
- (2) 確立期の資本主義－前半期（19世紀前半～70年代）：自由主義の時代
- (3) 確立期の資本主義－後半期（19世紀末～20世紀戦間期）：帝国主義の時代
- (4) 現代資本主義－前半期（第2次世界大戦後～1970年代前半）
：福祉国家体制の時代
- (5) 現代資本主義－後半期（1970年代～現在）：グローバル資本主義の時代

基準：国家は、資本－賃労働関係の再生産メカニズムにいかなる形で関与してきたのか。

※ 以上は、19世紀までに＜原始蓄積的過程－産業革命－産業資本主義の確立＞という発展を成し遂げた国についての、いわば標準的發展モデル（先進国モデル）でしかない。

III. 新しい歴史段階としてのグローバル資本主義

資本主義経済を支える賃金と利潤との分配関係の調整メカニズムが、どのような歴史的特殊性をもつのかによって、その歴史区分が可能である。

賃金と利潤との分配関係の調整メカニズムという、資本主義の基本的な存立構造からみて、グローバル資本主義は新しい歴史区分を画すものとして存在する。

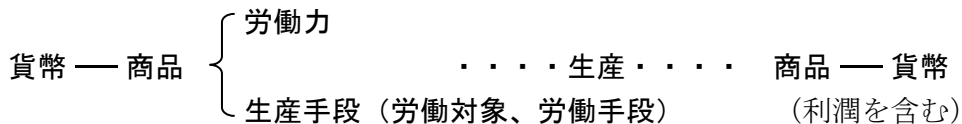
IV. 福祉国家体制下の調整メカニズムと「資本主義の黄金時代」

福祉国家体制下の完全雇用政策によって、必然的に賃金の持続的上昇が起こった。ただし、この賃金が持続的に上昇しても、同時に労働生産性が上昇し、その上昇率の範囲内に賃金上昇率が収まっていれば、そこから直ちに資本過剰の状態に陥ることはない。逆に、持続的な好況過程が実現される（1950年代、60年代における「資本主義の黄金時代」）。

V. グローバル資本主義における賃金・利潤の分配関係の調整メカニズム

先進資本主義国では、国境を越えての資本と労働力の移動を通して、賃金と利潤との分配関係を安定的に調整することが可能になり、過剰資本の顕在化をある程度は回避できる。

VI. グローバル資本



<市場>：経営資源の調達

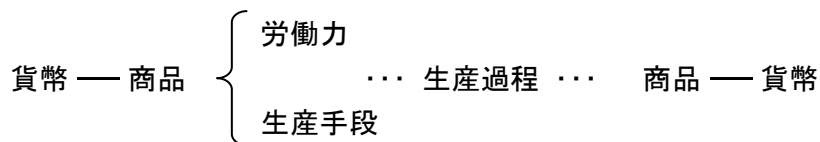
<市場>：商品の販売

※ グローバル資本：調達、生産、販売の国際化

VII. グローバル資本主義下の労働者の窮乏化

労働力商品 — 貨幣(賃金)

貨幣 — 商品(賃金財)・・・消費・・・



<資本の再生産・蓄積運動と労働者の消費>

- (1) 確立期の資本主義：労働者の消費は、もっぱら資本の再生産・蓄積運動によって規定されていた。
- (2) 福祉国家体制：資本の再生産・蓄積運動は、生産過程を担う労働者の消費に条件付けられている。
- (3) グローバル資本主義：その再生産・蓄積運動が、生産過程を担う労働者の消費に条件付けられることがなくなる。

<参考文献>

- ・飯田和人編著『危機における市場経済』（日本経済評論社、2010年3月）、第1章。
- ・拙稿「日本経済におけるグローバル資本主義への移行と労働市場の変容」
（明治大学『政経論叢』第78巻第3/4号、2010年1月。）
- ・拙稿「わが国における海外直接投資の展開とグローバル資本の確立」
（明治大学『政経論叢』第78巻5/6号、2010年3月。）